

なきごえ



1985

5

大阪市
天王寺動物園協会

石川多賀夫



たしか、この三月のはじめ頃だったと思いますが、各新聞に天王寺公園の抜本的な改造のことが大々的に報道されておりました。それらの記事によりますと、この公園を世界に開かれた

都市“大阪”の名所とするため、市として新しい構想の上に立って、動物園ゾーン、娯楽ゾーン、散策ゾーンなど、ゾーン別に整備し、一体的な公園としてリフレッシュすることが目的のようであります。

そのなかで、特に動物園ゾーンについては、子どもたちが待ちに待っている珍獣コアラ——私も先年シドニーの動物園で見ました。——の誘致を機会に、小動物との触れ合いの広場や遊具をうんと整えるなどして、子どもたちの一大楽園を造ろうというわけであります。まことに、心うれしい限りで、最近におけるヒット計画といえるのではないのでしょうか。

実は昭和45年私が大阪市教育委員会において、教育長をしていた頃のことであります。ある時大阪市議会の常任委員会で、「子どもたちの可愛がっている動物がたくさんいる動物園のすぐ横のところ、昼間から血しぶきが上がりかねないような犬の喧嘩を教育委員会は公然とやらせているではないか？もう間もない時期に今年も開かれる筈だから、必ず善処するように」と大変厳しいご叱責を受けたのであります。ビックリして早速いろいろと調べましたところ、こういうことでありました。すなわち動物園に隣接した場所にある、教育委員会所管の野外音楽堂——当時まことにお粗末な建物でありましたが、昭和58年に大阪城公園内に立派なものに建てかえら

なきごえ5月号もくじ
動物と私.....2
“お袋さんからひとりだち”.....3
動物園グラフ・動物園日記.....4・5
ゾウの飼育史あれこれ.....6・7
ゾウを飼育して.....8・9
動物なんでも相談室③.....10
動物園ニュース.....11

れました——の演奏舞台で、“闘犬大会”がどこかの団体主催の下に年一回という約束で何年間か開催されていたわけでありませぬ。勿論その時には、私自身は少しも知らなかったのであります。子どもの教育上放っておけないので、部下を引っ立てて二度とこのようなことがないように手を打たせました。

もともと、よく聞いてみると、当時まだ音楽といった文化的な面まで、なかなか予算の上で面倒を見てもらえないため、教育委員会の事務局としては、そうした面では、僅かな額でもノドから手の出るほどお金がほしく、そこでごく短い期間だからということで、なりふり構わずに、幼い子どもの心を逆なでするようなことをやったようであります。ただし、いわゆる闇貸しではなかったことは確かでありませぬが、長くなりますので、ここでは省略することにします。

さて今から約5年以前に、本誌に私が大阪市の一貿易係員として昭和25年春にタイのバンコクより子象を独力で連れて帰って来て、当時の寂しい動物園を賑やかにするとともに子どもたちを大いに喜ばせたということを書かせてもらいましたが、そのようにいささか動物園には貢献したとそれまで自負していた私が、教育長時代になって、自分自身知らなかったとはいえ、以上のようなことをしでかして本当に申訳ないと深く省みるとともに、いろいろと世の中の矛盾撞着について心の悩みを抱いたものであります。

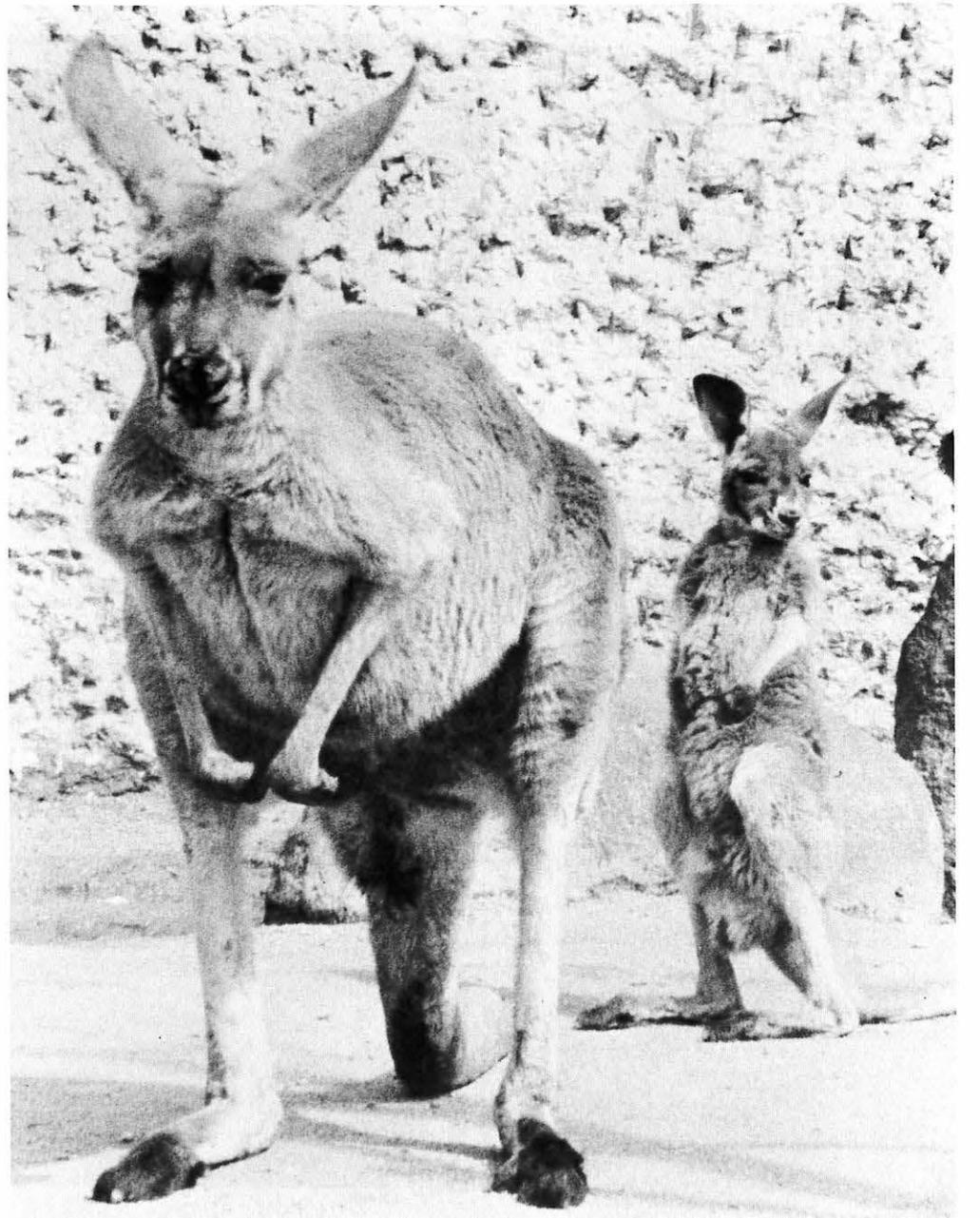
ところで、すでに野外音楽堂は立派に出来上がっており、また動物園は、これから一大計画をもって、子どもたちのために楽園完成に向かって邁進されようとしております。これで私の心もスッキリしました。有難いことだと思っております。動物園当局の方たちの一層のご活躍をお祈りいたします。

(大阪地下街株式会社取締役社長・元大阪市助役)

表紙の写真説明

“アジアゾウ (Elephas maximus)”
アジアゾウの“春子”が、天王寺動物園へやって来たのは、第二次世界大戦が終って、世の中が落ち着きを取りもどしてきた、35年前の1950年4月15日のことでした。今や当園一番の最古参動物となった春子は、今年開園70周年を迎えた天王寺動物園の歴史の半分を見てきたわけです。

(撮影：榊原 安昭)



“お袋さんからひとりだち”

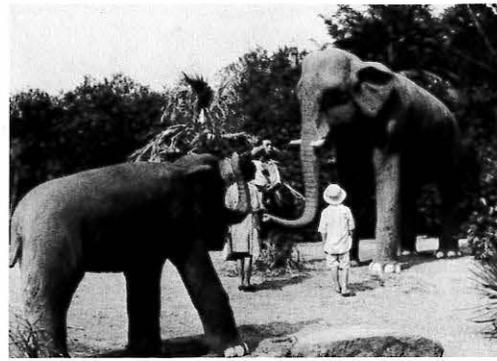
今年の1月7日に、袋から可愛い顔を出したアカカンガルーの赤ちゃんが、3月下旬に袋ばなれしました。しかし、まだお母さんのお乳を飲んで、あまえる光景も見られます。

(撮影：農本 武志)

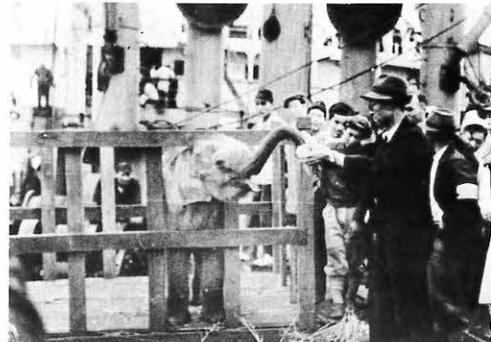
動物園グラフ

“春子” “ユリ子” 来園35年!!

第2次世界大戦中に、相次いでゾウを失った天王寺動物園へ、戦後ゾウが来園したのは、1950年のことでした。“春子”が4月15日に、“ユリ子”が6月5日にタイから来園し、今年で35年を迎えました。その後、1970年にはインドから“ラニー博子”が来園しています。



主人のいないゾウ舎の前にはコンクリートのゾウが作られていた。



関西丸の船上の“春子”



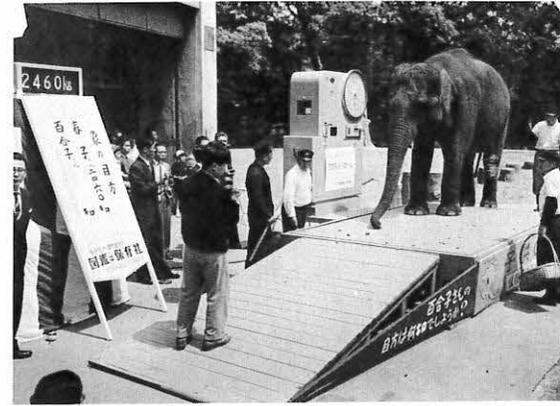
ゾウ舎へ無事、落ちついた“春子”



“春子”歓迎のアーチ、到着時“クダップ”という名前がついていたが、後に公募し“春子”の名がついた。



ゾウが来た日、一日の有料入場者数は6万人を超えた。開園以来、最高の人出だった。



1958年の体重測定、当時は仮設のハカリで計量していた。



現在の3頭、左から“ユリ子” “春子” “ラニー博子”



1970年、大阪で開催された万国博覧会を記念してインド政府から“ラニー博子”が贈られた。

年度	春子体重	増減	ユリ子体重	増減	年度	春子体重	増減	ユリ子体重	増減	ラニー博子体重	増減
1950	503ka				1967	3,530ka	20ka	2,910ka	120ka		
1951	803	300ka	390ka		1968	3,580	50	2,930	20		
1952	1,375	572	898	508ka	1969			3,140	210		
1953	1,430	55	1,014	116	1970			3,150	10		
1954	1,752	322	1,198	84	1971			3,320	170	560ka	
1955	1,990	238	1,427	229	1972			3,650	330	810	250ka
1956	2,114	124	1,596	169	1973			3,780	130	1,060	250
1957	2,322	208	1,732	136	1974					1,340	280
1958	2,460	138	1,843	111	1975						
1959	2,540	80	1,830	-13	1976						
1960	2,250	-290	1,920	90	1977	4,510	930	4,180	400	1,910	570
1961	2,630	380	1,960	40	1978	4,140	-370			2,060	150
1962	2,810	180	2,160	200	1979	4,080	-60			2,240	180
1963	3,000	190	2,440	280	1980	4,310	230			2,290	50
1964	3,240	240	2,510	70	1981	4,500	190			2,330	40
1965	3,440	200	2,590	80	1982						
1966	3,510	70	2,790	200	1983	4,090	-410			2,620	290

3・4月の動物園日記

- 3/11. キタオポッサムが交尾しました。
- 3/13. レッサーガラゴが交尾様行動を行ないました。
ヤツガシラが南園に飛来しました。
- 3/15. タンチョウが交尾しました。
- 3/18. キーウィの体重測定を実施しました。
交尾のためオランウータンの“ブル”と“サツキ”を同居させました。
- 3/19. ヤマシギを1羽保護しました。
- 3/20. ラマの“ロコ”がメスの子を1頭出産しました。

- 3/21. キンカジュウが交尾しました。
- 3/22. ベニジュケイの雌が肺炎のう炎で死亡しました。
スーティーマンガベイの雌が左手に咬み傷をうけたので、さっそく手術を実施し入院させました。
- 3/23. カナダガンが巣作りを始めました。
- 3/24. ふ卵器の試運転を始めました。
- 3/25. カナダガンの巣に2卵を確認しました。
- 3/25. パーバリーシープに双子が生まれました。
ふ卵器で卵のふ卵を開始しました。
- 3/26. タンチョウの交尾を確認しました。
- 3/28. コンドルが交尾しました。

- 3/30. ダチョウの雄が頸椎の脱臼で急死しました。
レクチャールームの講義室にて、入園者を対象とした動物園教育研究会を実施しました。
- 3/31. パーバリーシープのオスが1頭生まれました。
- 4/1. 開園70周年記念入園券3種が、本日より発売開始となりました。
水禽放養舎では、カナダガンが抱卵に入りました。また、シュバシコウは8巣で、アオサギは3巣で、コサギは2巣でそれぞれ抱卵を始めようとしています。

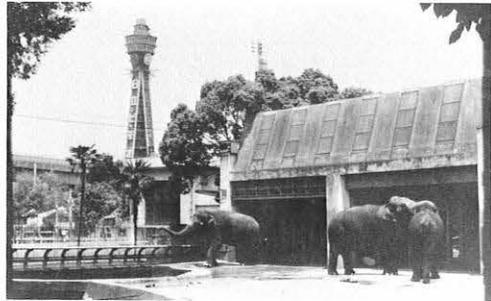
- 4/2. タスマニアデビルの寝室にビデオカメラを設置しました。
- 4/3. ニホンジカの雄の角が両側とも落ちました。
コンドルの雄が抱卵をはじめました。
カナダガンが7卵抱卵しているのを確認しました。
- 4/5. ハイイロコクジャクが抱卵に入りました。
- 4/6. 第2回動物園教育研究会が開催されました。
- 4/9. コンドルは順調に抱卵中です。
- 4/10. アオカケイとインドゴジャコウネコがそれぞれ1番ずつ、中国の上海動物園より、副園長以下3名による護送団とともに来園しました。

ゾウの飼育史あれこれ

米谷佳晃

アメリカのデトロイトに国際ゾウ研究会(E.I.G.)という組織があり、日本から最初に会員となったのは、かなり以前のことでした。現存するアフリカとアジアのゾウについて、広く情報交換や資料提供をしながら交流を図ろうというもので、全米はもとよりヨーロッパ、東南アジア圏、アフリカにまで及ぶ会員層はその筋の専門家である哺乳類の研究者、動物園やサーカス関係者も多く含まれています。最大の陸棲動物として生き残ったゾウへの愛着が強く、かねてよりゾウに関するデータやエピソードを集めてきたことから歴史的にゾウの飼育について追ってみたいと思います。

動物園としてのイメージがいまだに三種の神器とも言えるゾウ、キリン、ライオンをそろえることにあるのは残念ですが、動物園にとってゾウが欠かせない存在であるのも事実でしょう。ところが、開発に名を借りた自然破壊や野生下での象牙を目的とした乱獲により、近年、ゾウの数は激減しています。とりわけアジアゾウはアフリカゾウに比べて、入手し難い傾向にあります。折りしも、開園70周年を迎えた天王寺動物園で、2頭のアジアゾウ(共にタイ産のメス、春子とユリ子)が来園35年になります。ち



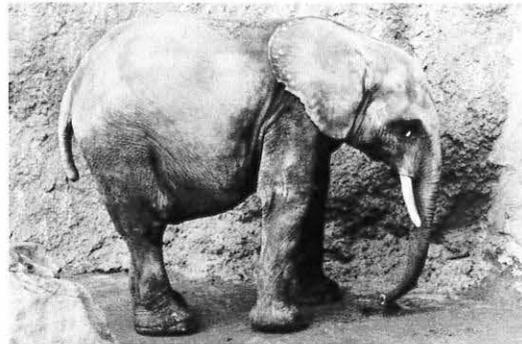
現在のゾウ舎(左からラニー博子、春子、ユリ子)

ようど動物園の半分に当たる歴史を見続けてきた訳です。大阪でのゾウ飼育の始まりは、天王寺の前身となる府立大阪博物館附属動物檻だったようで大阪に移管された動物の中に1番のアジアゾウ(マレー産)が含まれており、そのオスが1914年に第1号入園しています。オスが死亡した後、奇しくも離別していたメスが甲府公演中の有田サーカスより第2号として引き受けられましたが、番を飼育するという機会には至らなかったのです。(※天王寺のゾウ飼育史の詳細については本誌1984年12月号を参照下さい)

日本への初渡来は、1408年、今の福井県に当たる若狭国へ着いた将軍寄進用のアジアゾウ(亜種不明)ですが、3年後に朝鮮へ献上されています。享保年間の1728年、生きたゾウとして5回目の来日となるベトナム北部からの1番は、我が国の初注文によるもので、当初より繁殖を目的として導入されました。

ゾウを増やして軍役に使う目的が将軍の考えにはあったようです。しかし、発注後2年を経て長崎へ着いた1番のうちメスが死亡し、計画は中断してしまいました。近年、ワシントン条約等によって野生動物の取り引き規制が厳しい以上、遅ればせながら日本でもゾウの繁殖というテーマに真剣に取り組む必要があるでしょう。国内の飼育現状を見た場合、オスとメスを一緒に飼っていても年齢や環境設備の善しあしでペアリングの条件を十分満たしているとは言えない園が多いように思われます。

1984年初頭に筆者自身が調べた全国の飼育頭数はアジアゾウのオス14、メス73、計87頭、そしてアフリカゾウのオス19、メス64、計83頭となっています。この他にも性別不明、及び個人に近い立場で飼われているため、調査しきれなかったものがプラスされるし、調査集計中に死亡、あるいは移動(国外搬出)等の諸事由でマイナスを生じることも考慮せねばなりません。日本動物園水族館協会加盟の園館以外にも可能な限り調べた結果であり、今後、この種の調査をする際に1つの指針になり得ると信じます。現在、オスとメスを飼育中の園館は、アジアゾウが次の9カ所、上野、多摩(ただし、オスはセイロンゾウ)、長野・茶臼山、豊橋、宝塚、神戸・王子、道後、平川、長崎バイオパークで、今春には横浜・金沢自然公園にボンベイ市より1番のインドゾウが来園予定となっています。一方、日本初のサファリ方式による宮崎サファリパークが契機となり1975年以降、我が国でもアフリカゾウの飼育率が増加し、繁殖に有利な群飼(オスに対して複数のメスでグループ構成される)も可能となったことから、アフリ

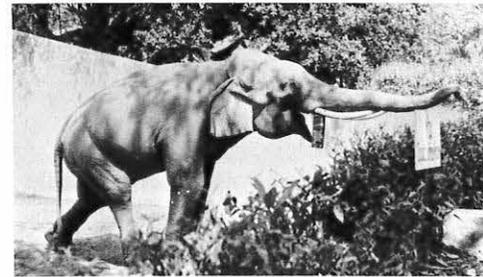


日本初渡来のマルミミゾウ

カゾウは12カ所、すなわち釧路、仙台・八木山、群馬サファリワールド、多摩、東山、富士サファリパーク、姫路セントラルパーク、広島・安佐、秋吉台サファリランド、大分アフリカンサファリ、宮崎サファリパーク、いわきワールドサファリです。ゾウ飼育そのものを全くやめてしまった行川アイランドのように過去にアフリカゾウ1番を経験している所もあれば、アジアゾウのオスだけを飼っている鉄輪

のような動物園もあります。サーカス業界(矢野とキグレ)でアジアゾウのオスが芸をしていたのも、さほど昔のことではありません。サーカスと言えば、本邦最初のアフリカゾウは、1953年3月に某サーカスが輸入した若いオスで、動物園には1965年、金沢へオスが来ています。唯一のマルミミゾウ(日本初渡来)もオスでした。マルミミゾウは、アフリカゾウ(草原型に対する森林型)の亜種で世界的にも飼育例が少なく、筆者の知る限り、西ドイツのデュイスブルグ(有名だった西ベルリンの個体は1982年死亡)、イギリスのホイップスネード・パーク、フランスのバリ、スペインのバルセロナ、アメリカではコロンバス、カナダ・オンタリオ州のサファリパークに各々1頭のオスがいて、ごく最近判明したところではアメリカのサーカスでメス1頭が飼われており、コロンバス動物園から繁殖用ローンの話が持ち込まれているようです。

1983年の調査によれば、全米における飼育数は、アジアゾウ156、アフリカゾウ171、そして死亡数はアジアゾウ148、アフリカゾウ54、それ以外に所在不明のアジアゾウ116、サーカスや動物業者に送り出された記録としてアジアゾウ48、アフリカゾウ28の計721頭が判明し、前者は69カ所、後者が68カ所で飼われていました。アフリカゾウの飼育下最大のもはフロリダ在住の個人所有により、数頭の若オスを含む約90頭から成る大集団でしょう。我が国では、一時収容分を含めて2グループから成るアフリカゾウ22頭(5/17)が大分アフリカンサファリで飼われた記録があります。この時期、3頭のアジアゾウ(全てメス)も飼われていました。アジアゾウについては、ポートランド(ワシントン・パーク動物園)が1963年以降、過去20年間に23回の繁殖(性比12:11)という記録を持ち、飼育数も世界のトップレベルにあります。この2年近く繁殖に至ってませんが、ここのオスを中心に他園のメスに人工授精が試み始められています。一方、欧州園に目を向けると、西ドイツのミュンヘン、ハノーバー、デンマークのコペンハーゲン、オランダのロッテルダム、イギリスのチェスター、最近ではスイスのチューリヒ等がアジアゾウの繁殖に優れた成績を残していますけれど、東南アジア圏を除いて5頭以上の



アジアゾウ・タイ王宮所有の白象

群飼いとなると、欧米の園館でも収容スペースその他の事情から非常に限られてしまうのが現状です。サファリパークのほとんどは、欧米もアフリカゾウが主流となっています。日本でのアジアゾウについては、残念ながら正規の動物飼育施設でなく、1970年の大阪万国博にタイから参加した20頭(成獣8/8と仔4)がこれまでの最高です。後に妊娠中の個体が出産し、皮肉にも日本で唯一の生存例となっているオスを加えることになりました。ついでながら我が国のアジアゾウ初繁殖は20年前の宝塚動植物園



象牙の密猟が後をたたないアフリカゾウ

で、オスの死産例が報告されています。アフリカゾウはサファリが先鞭をつけるだろうという筆者の予測通り、昨年1月に群馬サファリワールドで生まれたオスが初めてです。出産間もなく死亡しましたが、今後も繁殖用のオスが優秀と認められるだけに大きな期待を寄せております。

戦争による悲劇は今もって語り継がれねばなりません。戦時中、猛獣処分の対象にされたようにゾウ(当時は全てアジア産)は見かけよりも危険な動物です。繁殖もこれからの課題とは言え、それ以前にゾウをいかに飼育管理できるかが重要であります。その上で一日も早く適齢期のラニー博子に良いオスを迎えて、2世誕生に希望をつなげたいものです。

(アート・クリエイター/自然科学写真協会会員)

参考文献

日本動物園水族館要覧

(社)日本動物園水族館協会

上野動物園100年史・資料編

東京都

分類と飼育③長鼻目

(財)東京動物園協会

動物渡来物語(高島春雄著)

大阪の動物園(上田長太郎著)

動物園奇談(毎日中学生新聞編集部編)

第4次ゾウ研究会報告集

ミズリー州・カンサスシティ公園局1983年

ゾウを飼育して

現在、天王寺動物園には、“春子”、“ユリ子”、“ラニー博子”の3頭のメスのアジアゾウが3人の飼育係によって飼われています。私とゾウとのつきあいの始まりは、私が動物園に就職した昭和38年のことになります。当時はもともと月に何回かある宿直の時に、“春子”の寝室につるしてある温度計をチェックするときにゾウと接するだけでした。その時、まさか私がゾウの担当者になるとは夢にも思っ



筆者とゾウの“春子”

ていませんでしたが、水禽舎、サルアパート、クマの担当を経てゾウの見習い担当となったのは14年前のことでした。当時は“春子”、“ユリ子”の2頭しか飼われていませんでした。先輩から「ゾウ舎の中へ入るときは、体が大きい動物であるので十分、間合いを取るように。また、ゾウに自分の後ろを見せないように気をつけて接するように」などの注意を受けて、先輩の指導のもとに見習いに入りました。初めてゾウ舎の中に入った時は、平気でしたが、今となって考えてみますと若さゆえの怖いもの知らずであったと思います。幸いにもゾウが私を認めてくれたので、日常の作業はすぐにできるようになりました。

作業の中で一番重要なことは、鎖による繋留でした。ゾウの動きを制御するために、夜の間寝室の中央に設置された鎖に前足をつなぎとめることが行な



昔のゾウの体重測定風景

われていました。また、時に昼間運動場につなぎとめることも行なわなければなりません。それは、毎年5月5日の子供の日に行なわれてきた「ゾウの体重を計る会」という催しの時でした。当時は現在のように運動場に埋め込まれた常設の体重計はありませんでしたので、その日に合わせて数日間だけ、仮設の体重計を設置して体重を計っていました。



現在のゾウの体重測定風景

その間、体重計を壊されないようにゾウを鎖につなぎとめておく必要があったからです。

その後、1970年に大阪で開催された万国博覧会を記念して、インド政府から“ラニー博子”が贈られてきました。この“ラニー博子”にはいろいろな思い出があります。しばらくの間は北園で、従来から飼育されていた“春子”、“ユリ子”とは別に飼育されていましたが、成長にともない南園で飼育するこ



来園当時の“ラニー博子”

とになり、私たちが担当となりました。南園へ来た当初は、ゾウ舎横のワラ倉庫を仮住まいとして飼育しました。現在の“ラニー博子”の寝室ができたのは1973年になってからでした。

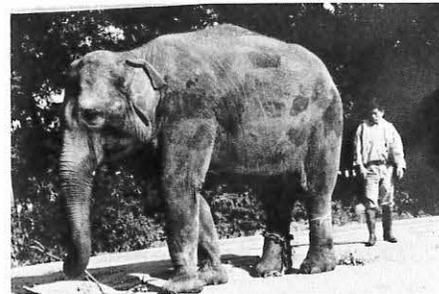
しかし、“ラニー博子”を先輩の2頭の“春子”、“ユリ子”と運動場で同居させることはたいへんでした。3頭を同居させてみましたが、“春子”、“ユリ子”の2頭にいじめられ、攻撃されました。3頭をいっしょに展示できるようになるまでは、何カ月もかかりました。



博子が同居できるようになった頃の3頭

“ラニー博子”についてはもう一つ大きなことがあります。それは、従来から行なってきた前足の繋

留を後足に変更したことです。寝室での鎖による繋留は、従来から行なわれていたのですが、“ユリ子”はだんだん飼育係に対して攻撃的になってきたため北海道や東京で起こった人身事故のことも考え、1979年から夜間の繋留は中止しています。“ラニー博子”は、入園当初から、ちょっとしたすきに飼育係を突きえ込んだりすることがあり、成長するに従って危険性が増してきたため、他園のゾウ担当者の意見なども参考にして、“ユリ子”のように繋留できなくなる前に夜間の繋留を前足から、より危険の少ない後足に変更することにしました。寝室のまん中にゾウをつなぐことは、周囲に逃げ場がなく、またゾウの武器である鼻の下で作業を行わなければならないこととゾウの動きの変化を十分読み取れないことにつきます。特に新人の飼育係への攻撃がみられ、小さな事故が続いたので、1984年の1月20日から繋留を後足に変える調教を始めました。



後足繋留のための調教

最初に後足を鎖に慣れさせるために、左の後足に鎖をつけましたが、たいへん気にしていました。その後、5ヵ月間はこの状態を続けました。その時は、命令に服従させるため餌の量は普段より減らしました。次の段階ではロープを後足にしぼり、強制的に柵外に出させ鎖を後足に取りつけました。そのうちやっと命令に従い後足を柵外に出すようになり、調教を始めて10ヵ月目には、寝室内に収容すると、自発的に柵外に足を出し、容易に鎖による繋留ができるようになりました。

私の考えでは、飼育係にとってどの動物の担当となっても苦労はありますが、特にゴリラやゾウなどの動物は力は強く、知能も高いので、飼育管理がむずかしいと思います。私はゾウの見習い担当となったときから、できるだけゾウに愛情を持って接するように心がけてきました。できるだけゾウと過ごす時間を多く取るようにしています。また、悪いことをした時には、徹底的にしかることが大切だと考えています。

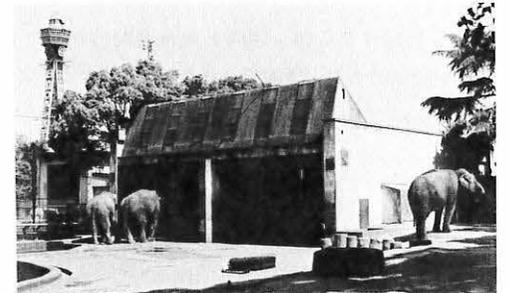
たいいてい動物が甘いものが好きのように、ゾウも甘いものが好きなので、リンゴ、パン、黒砂糖、カンパンなどをほうびとして少量与えています。また、少し変わったところでは、生の木の枝があります。直径5cmぐらいの枝まで好んで食べますので、常に与えている干草やニンジン、サツマイモなどの根菜

類の他にクスノキ、ニレ、ケヤキなどの枝を時々与えています。スキンシップも大切で、きれい好きなゾウのために、ひまがあれば、くまでやデッキブラシ、たわしなどで体をこすってやります。

10数年ゾウを飼育してきて、思うことは、ゾウは飼育係のことをよく見ていて、飼育係の経験年数の差をよく知っており、先輩の飼育係がいるときは、いくらゾウにつくしても、私の命令をあまりきいてくれませんでした。そんな経験から、今は私がゾウ担当者で一番経験年数が長いので、ゾウの前では先輩たちと対等の関係にあるような態度でゾウに接しなければならぬと考えています。

また、ゾウにも順位があります。先程述べた“ラニー博子”の調教の時に、餌の減量などの措置をとって、命令に従わせようとしたのですが、どうしても荒れて、命令に従わないときがありました。攻撃的でどうしようもなくなった時にこのゾウの順位を利用しました。3頭のうちの一番順位の上の“春子”を“ラニー博子”の近くにつれていくことにより、私たちの命令に従わせることができました。

また、このゾウの順位では、“ユリ子”が最も下位にあります。このため、ゾウの中ではいじめられたりすることが多く、そのはげ口として飼育係に対して攻撃的になったり、建物を壊したりしてストレスを発散しているように思われます。そこで、そのストレスの発散の一つの方法として通常与えていない、生の木の枝の給与は役立っているようです。木の枝を与えるとゾウは喜んで食べますので機嫌が悪い時には多くを与えるようにしています。



現在のゾウ舎

私のわずかな経験ですが、ゾウの飼育はたいへんむずかしいと思います。今後も3頭のゾウを事故のないように飼育していきたいと考えています。事故防止のためにゾウを猛獣扱いとして、ゾウの中には一切入らない飼育法をとることもできますが、私はその方法はいつでもできるので、いろいろな利点のある直接ゾウに触れる現在の飼育方法をできるだけ続けていきたいと考えています。そうすることにより動物と人間のふれあいのすばらしさを入園者の皆さんに見ていただけるのではないのでしょうか。

(飼育課：東 政宏)

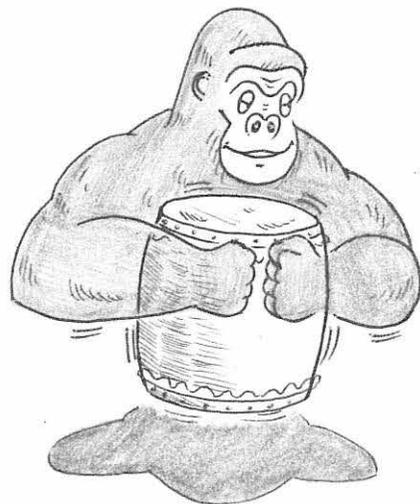
動物なんでも相談室 ⑨

ゴリラが胸をたたくと、とても大きな音がしますが、どうしてですか？ 又、どんな時によくするのですか？

ゴリラが自分の胸をたたいて音をだす行動を「ドラミング」とよびます。実はゴリラの胸の筋肉の間には空間があり、空気が入っているためちょうど胸の中にタイコを持っているようになっていのです。特にオスのゴロの方が体も大きいので音も大きく聞こえます。ドラミングは威嚇のためにするとされていますが、動物園ではむしろ、非常に気持ちがリラックスしている時によくするようです。野生のゴリラではこの行動は相手に自分の存在を意識させ、緊張をほぐす役目があるのかもしれませんが。メスのラリもよくドラミングをしますが、ゴロ程大きな音はしません。又、ゴロは胸以外にも分厚い手でコンクリート壁やガラスをたたいて、とても大きな音をだしたりしますがむしろこの方が威嚇といえるようです。ゴリラは体全体で気持ちを表現します。気分がいい時に目をつむり自分の頭をたたいたりして陶醉してい

る様子はまさに天才のドラマーです。私はドラミングの音が聞こえると、今日もゴロもラリもゴキゲンだなあと、うれしくなります。

(回答：大野尊信)
(イラスト：藪野幸司)



愛鳥週間は どうして決められたのですか。

毎年5月10日からの一週間を愛鳥週間（バードウィーク）と決められ、各地でふさわしい行事がたくさん催されていますね。元々、この行事が始まったのは



アメリカの鳥類学者のオースチン博士という人が、戦後日本の野鳥がひどく減少し、又、生息地が荒れているのを見て、昭和22年にアメリカで決められていた愛鳥の日（バードデイ）＝4月10日を日本にも、と勧告したのが始まりです。その後、昭和25年から今の5月10日からの一週間を愛鳥週間に改められました。このころの方が日本全国に普及させるにはふさわしいからです。春に渡ってきた鳥の繁殖期に入り、さえずりなども多く耳にすることができたり、各地で多くの鳥を観察することができますね。

ただ、今でも愛鳥週間に巣箱をかけるという行事が行われているようですが、もうこの時期には巣作りを始めたり、ヒナが誕生している頃なので、本当はもっと早い時期にしないと、逆効果になります。又、動物園では親からはぐれたキジやカモのヒナをかわいそうだといってもってこられることがありますが、親からはぐれる原因は人間がむやみに立入ったりした結果、起ることが多いようです。もっともっと正しい愛鳥精神を普及させなくてはなりませんね。

(回答：大野尊信)
(イラスト：藪野幸司)

動物園ニュース

§ 上海動物園からインドコジャコウネコ、アオカケイ寄贈

当園の開園70周年を記念して、友好都市の上海市の動物園から、インドコジャコウネコとアオカケイそれぞれ1番が4月10日に送られてきました。顧金根副園長をはじめとする3名の方々が同行してこれ、4月12日に贈呈式が行われました。折りからあいにくの雨のため贈呈式はレクチャールームで行なわれましたが贈呈式終了後、それぞれ小獣舎とキジ舎に展示しました。



インドコジャコウネコは、中国南部から中央アジアまで広く分布している体長65cmぐらいの小型のジャコウネコ科の動物です。中国名の「シャオリンマオ」は、すばしっこい小さいネコという意味だということです。

アオカケイは、灰青色の羽毛が美しいキジの仲間、中国南部の標高3,000m前後の森林や草原に生息しています。

§ ジャッカル入園

3月27日、ジャッカルの雄が来園しました。昨年1月に雄が死亡し、雌1頭になってしまっていたのですが、あやめ池遊園地動物園のご好意で、あやめ池生まれの雄をおゆずりいただきました。来園した雄



は1983年4月13日生まれました。動物病院で検疫終了後、4月5日から小獣舎で雌と見合いをはじめ、9日には同居させましたが、折り合いはよいようですので今後の繁殖が楽しみです。

§ ラマ出産

3月20日、ラマの“ロコ”が出産しました。“ロコ”にとっては、一昨年11月に続いて3回目のお産でした。いつもなら群から隔離して出産させるのですが、今回は予想より早く出産したため、出産中に雄が“ロコ”に乗りかかり、生まれた子供は左の前足を骨折してしまいました。出産直後の新生児でしたが、動物病院で手術を行いました。終了後母親のもとへもどすことにしましたが、人の匂いがついたので、母親が育ててくれるかどうか心配しましたが、母親はあまり気にはしていないようでした。

現在の飼育動物数

(1985年3月31日現在)

哺乳類	13目	111種	424点
鳥類	18目	178種	540点
爬虫類	3目	31種	65点
計	34目	320種	1,029点



しかし、3本足ではなかなか起立することができないため3日目は介添哺乳してやりましたが、4日目には、起立し自力で哺乳できるようになりました。
★動物園協会に寄付を頂きました。

4月27日、市長応接室において、さる昭和57年3月から引続いて下記の方から5回目の寄付を頂きました。

寄付者 大阪府化成工業協同組合
大阪金属工業協同組合

理事長 山本 一さま

これで、今回分を含め合計90万円に達し、当協会ではご厚志に報いるため運営資金として有益に使わせて頂きます。ありがとうございました。



協会事務局

§ ただ今抱卵中

3月も下旬になって、鳥類の産卵もたけなわとなってきました。先月号でお知らせしましたカナダガンは4月1日から本格的に抱卵に入っており、9卵確認されています。日本庭園のコブハクチョウも、3月末から6卵抱卵しています。両方とも5月初めにはふ化するでしょう。キジ舎では、ハイロコジャクが自然抱卵し、4月21日にヒナが1羽ふ化しました。

また、猛禽舎ではコンドルが4月3日から抱卵しています。数年前から産卵はしているのですが、自



分で割ってしまうことが多く抱卵しませんでした。今年3年前に完成した猛禽舎の環境に慣れたのか、オ

ス、メス交代で卵を抱いています。

ふ卵器も3月26日から運転を開始し、セイラン、ニジキジ、アカハシハジロなどの有精が確認されていますので、ヒナ誕生のニュースを次号でお知らせできるでしょう。

★協会員のみなさまへ。

動物園開園70周年記念事業に協賛のため、会員のみなさま方へご協力をお願いしましたところ、多大のご支援を頂き、ここに厚くお礼申し上げます。

なお、詳細は追って、ご報告申し上げる予定です。
協会事務局

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

むし

くらしとかいかた

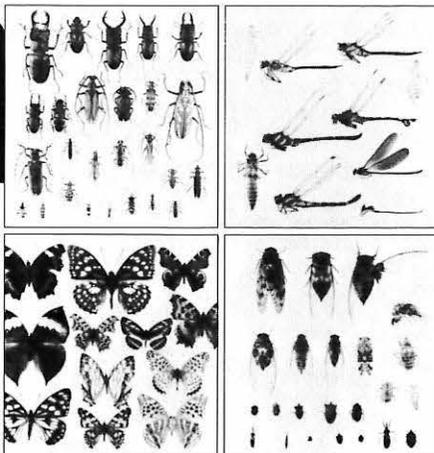
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。

きつとすはらしいことに出会えるはずだ。

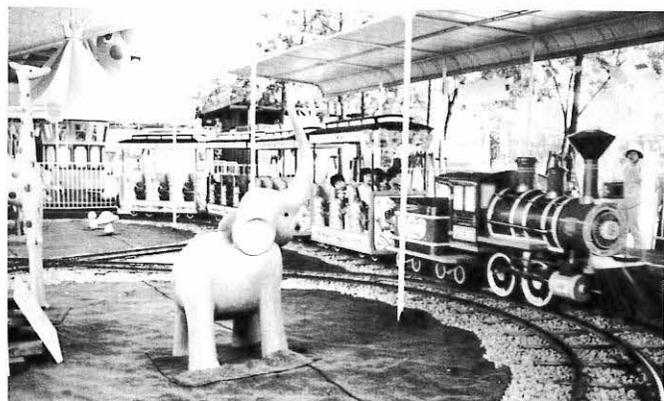
85変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社

〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園

ZOO GUIDE の

ご購読をおすすめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

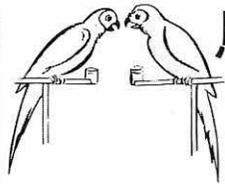
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

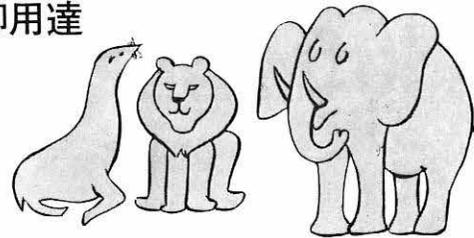
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

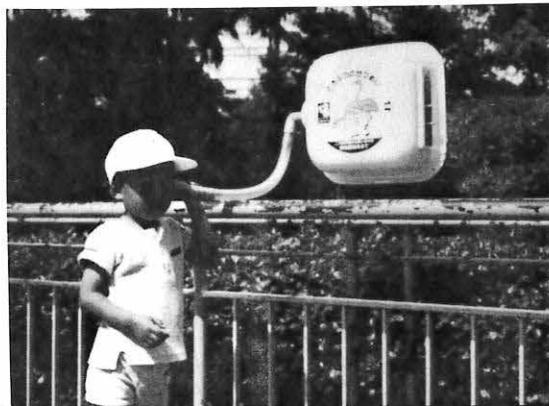
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

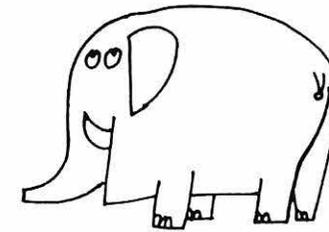
大阪市 天王寺動物園内

中央売店

☎(06)771-0973



天王寺動物園内



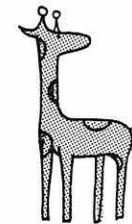
南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06)771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

夜行性動物舎完成記念

キーウィの
ぬいぐるみ

新発売

1コ 2,300円

協会で……！



なきごえ 昭和60年5月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻 第5号 （通巻237号）

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価 100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

（土井 良彦・伊藤 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦・宮下 実）
（長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高）
（仲谷 登・柴田 総・藪野 幸司・堀 弘・大川 光雄）